

授業科目	簿記演習				単位	2		
履 修	選択	関連資格			ナンバリング	EN31402J		
開講年次	3	開講時期	前期	該当DP	DP4-3			
担当教員	寺井 泰子							
授業概要	<p>今日、簿記会計の知識を知ることは不可欠である。なぜなら、企業においても、個人で事業を営むにしても、自ら家計を自己管理する手法として、簿記会計の知識を備えていることは重要であるからである。</p> <p>そこで「簿記演習」では「簿記入門」で学習した項目を土台として、帳簿の記帳方法や決算整理事項を中心に学習し、試算表や精算表作成方法の習得に励む。意欲の高い方は簿記検定試験の受験を推奨します。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 期中の取引から仕訳を考え、帳簿の記入方法に基づいて、その内容が説明できる。 2. 期中の取引から適切な伝票を選択し、その内容が説明できる。 3. 決算整理事項から仕訳を考え、複式簿記の仕組みを理解し、その内容が説明できる。 4. 精算表作成から財務諸表作成まで、その内容が説明できる。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	40	30	20	0	0	10	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)								
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)								
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)	40	30	20			10	100	
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
期中の取引から適切な勘定科目を選択して仕訳を行い、総勘定元帳へ転記ができ、各種試算表を作成することができる。また、決算整理事項から財務諸表を作成し、一定日目の財政状態及び一定期間の経営成績を適切に表示することができる。この財政状態及び経営成績を表示して、地域財政基盤を財務予算面から役立てる方法を考えることができる。				期中の取引から適切な勘定科目を選択して仕訳を行い、総勘定元帳へ転記ができ、帳簿組織を作成することができる。また、決算整理事項から財務諸表を作成することができる。地域財政基盤の円滑な運営・改善に役立てる方法を考えることができる。				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)

1	オリエンテーション及び講義 ・簿記演習の目的・狙いについて解説する。 ・「簿記入門」科目の復習をする。	オリエンテーショ ン・講義	当該部分の復習	30
2	帳簿の理解 主要簿と補助簿について理解をする。 帳簿の書き方(記帳方法)について理解する。 今回は特に現金出納帳・当座預金出納帳および小口 現金出納帳にの記帳方法について解説及び演習を行 う。	講義	当該部分の復習	30
3	帳簿の理解 主要簿と補助簿について理解をする。 帳簿の書き方(記帳方法)について理解する。 この回では、特に仕入帳・売上帳、受取手形記入帳・ 支払手形記入帳、売掛金元帳・買掛金元帳の記帳方 法について解説及び演習を行う。	講義	当該部分の復習	30
4	帳簿の理解 主要簿と補助簿について理解をする。 帳簿の書き方(記帳方法)について理解する。 この回では、特に商品有高帳の記帳方法について解 説及び演習を行う。	講義	当該部分の復習	30
5	試算表の理解 この回では、合計試算表について解説演習を行う。	講義	当該部分の復習	30
6	試算表の理解 この回では、残高試算表について解説及び演習を行 う。	講義	当該部分の復習	30
7	小テストの実施 1回～6回までの講義の内容を範囲として小テストを 行う。	講義	当該部分の復習	60
8	伝票と仕訳日計表の理解 各種伝票について解説および演習を行う。	テスト・講義	当該部分の復習	30
9	伝票と仕訳日計表の理解 仕訳日計表について解説及び演習を行う。	講義	当該部分の復習	30
10	決算手続の理解 決算整理事項について 1 決算時の現金過不足、現金、消耗品及び引出金の処 理について解説及び演習を行う。	講義	当該部分の復習	30
11	決算手続の理解 決算整理事項について 2 貸倒引当金の設定、固定資産の減価償却及び固定 資産の売却について解説及び演習を行う。	講義	当該部分の復習	30
12	決算手続の理解 決算整理事項について 3 売上原価の算定及び費用・収益の繰延べと見越しに ついて解説及び演習を行う。	講義	当該部分の復習	30
13	決算手続の理解 精算表の作成について解説及び演習を行う。	講義	当該部分の復習	30
14	財務諸表について 損益計算書及び貸借対照表について説明する。	講義	当該部分の復習	30
15				
16				

17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	簿記は会社のお金の流れを学習する学問です。お金を取り扱わない会社は存在しません。その会社に将来就職される方に必須の知識です。当該科目は「簿記入門」科目の発展系となりますので、「簿記入門」履修済みの方や簿記検定受験経験者に履修をお勧めします。			
テキスト	書名:みんなが欲しかった簿記の教科書 日商3級 商業簿記 第7版 著者:滝澤ななみ 発行:TAC 出版 ※初回講義から持参すること。			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	現代の簿記論 篠原淳、古市承治、梅田勝利 編著 税務経理協会 2,640円 ※購入希望者は担当教員まで申し出てください。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	履修を考えている方は初回講義から出席してください。簿記という学問は連続して講義を欠席すると講義内容についてこれなくなります。 体調管理を万全にして意欲的に講義へ臨んでください。意欲が高い方は簿記検定試験の受験・合格を推奨します。			
達成度評価に関するコメント	試験やレポートの提出物については、授業の中で指示をします。 授業の積極的な参加を評価します。 授業中の質問や教員の問いに対する回答、予習、復習などを評価します。 授業中に不必要な発語・行動(他授業のレポート作成など)を行わないことは勿論です。			

